

平成26年度 予算編成方針のポイント

平成25年10月30日
財 政 課

依然として、厳しい財政状況

【平成26年度の見通し】

- ・歳入では人口減等により市税の増収が見込めない中、歳出では扶助費が増加傾向
- ・国の予算編成過程で、地方財政計画上の歳出特別枠の見直しや消費税率の引き上げに伴う諸制度の改正による影響が懸念される
- ・新たな経済対策や地方交付税の動向が不透明



26年度当初予算も多額の財源不足が見込まれる
※ 「歳入に見合った歳出が予算の基本」という認識が不可欠

財政調整基金 残高
約14億5,000万円
(H25.3定 現在)

本市の財政は、平成24年度決算において、一般会計では3年連続で実質収支の黒字を確保したものの、平成23年度からの繰越金を考慮した単年度収支では約10億円の赤字となっています。

【平成25年度当初予算】

平成25年度の当初予算編成では、約12億2,000万円の財源不足が生じたことから、財政調整基金の取り崩しにより、収支均衡予算を編成

スクラップ・アンド・ビルドにより、メリハリのある予算編成

ゼロベースの視点で必要性、有効性を厳しく検証し、スクラップ・アンド・ビルドを行い、メリハリのある予算(=選択と集中)といった取り組みが必要です。

【予算編成に向けた取組】

- ・スクラップ・アンド・ビルドを行い、メリハリをつける
- ・コストの低減や質の向上を進め、安易な歳出増としない
- ・事業の創設、拡充は、ペイ・アズ・ユーゴー原則を念頭に置く
- ・新規事業は、後年度の負担を明らかにする
- ・既存事業の拡充は、これまでの効果を検証し、費用対効果を示す

予算要求は、別途通知する予算要求基準額の範囲内での要求を基本とする
(扶助費の自然増等を除き、原則として平成25年度当初予算の範囲内)